戰後に於ける列國の武裝 第二稿

特別
又6
8490
1798(2)

76
8490
1798(2)

大阪毎日大正六年五月号

五年五月廿四日

戦後に於ける列国の武装

陸軍少将　宇垣一成

欧洲国民の充溢せる力と財と精華たる学と術とを粹を注ぎて、現に欧洲の天地に演ぜられつつある龍闘虎搏的の大活劇は、今や歳月を閲するまと茲に二年有半に達した、此の前古未曾有の大戦争が社会の各方面に與へつつある影響は実に多種多様にして而かも莫大でなければならぬ、従て之れが為に吾人の得たる各種の教訓も決して尠少ならずである、取り分け軍事に関するものい頗る豊富であると謂つべきだ、先ず

戦争其のものは今尚進行中に存して何時平和の曙光が認めらるべきものやら、如何なる形式の下に講和が成立すべきものやら又戦後に於て世界地図の色彩が如何に変更さるべきやは、神ならぬ身の知るよしもなし、従て此の戦争の世へたる教訓、之より得たる経験も今後の経過に徴した上でなければ、可否に対する最后の断案を下すことの遅日を待てある感あるものが尠なくない、就中列国国防の施設、勢力、締約等の如きは、地図の色彩が如何に変更されの境界線が如何に異動するかに至大の関係を有するから、尚更今日に於て之を論断するこ

とは至難であるのみならず全く徒労事である
と考へる夫故余は茲には単に過去の出来事よ
りして未来の趨勢を推定し得る事項中最も緊
要なる三四の点を左に指摘記述して国家
の前途に意を注きつつある同胞の参考に供する
積りである。

一国民性の陶冶　欧洲天地諸方面戦場に於ける其
の多くは両軍対峙、瞬日補久、勝敗の決容易に
逆睹し難きの観あるは、果して何に原因する
か、之五百人の大に講究を要する点である、素
より各方面に於ける対峙両軍間の兵数は謂

ふまでもなく其の他兵器彈薬の準備関係
まで到る度平衡を得て決して無視べきの機
毫末たりとなしとは云へぬ、否慥に權衡を失
して居る方面又、地熱が少なくないにも拘はら
ず兵數兵器彈薬等の物質上の優者にして
容易に其の考慮を突破躍進し能はざる所以
のものは、深く詮索して見れば、結局自己なる
小我を捨てて、國家なる大我に、強、まる的の情性、心
及勇往邁進的の意氣に欠くる點に帰納し
得る様じある。近時聯合軍の勢威著しく躍進
して断次優勝の地位に立ちつつある傾向を呈し

同盟側をして講和提議の弱音を吐かしむるに到り
し所以のものは、聯合側の物質的準備の整頓と其
の一因たるを失はずとは雖、其の主なる原因は摩
國一致國難に當たんとする情性心や勇氣、所謂無
形的要素が、聯合國民の自覺に依りて断次陶冶
向上せられつつある自然の發露に外ならずと信
するのが至當じある。徐ろに列國現時の施設を
通覽すれば、戰後召戦爭の終るを待つまでも
なく、現に欧米の國民性は瞑々裡に武裝的換言
すれば断次硬性に変化し進展しつつありと認め
らるべき節々多々なる在して居る、彼の個人の自由

意志の尊重を國家最高の主義とせる英國でさへ、今や強制徴兵法を實施するとか、或い軍需品の製造に使用し得べき、民間私有の工場を官の強制監督の下に置くとかしても國民いたしたる苦情とは如何程である、別けて宇内に於て比較的軍事に冷淡なりし米國でさへ、欧洲大戦爭に甚だく刺激せられしと見へ、近時に於ける軍備擴張熱の勃興は凄まじき勢を呈して居る、のみならず各種學校は教育の一科目として普く兵式訓練を加へたとも傳へられて居る、要は世界各國とともに國家の爲には個人の生命も自由も、資財も情性とすらも、敢て辞せざる底の精神の發露は一般に顕著となりつつある事とは明かである、其の他戦爭に餘儀なくせられたる自然の結果であるかも知れぬが、兎に角文弁國民間には質素の美風、勤倹力行の良習は大に涵養陶冶されつつある、食料の節約や婦人小児の職業的治働や乃至は各邦に於ける奢侈品類の禁止の如き、又は多年一種の果飲癖を有する者の感ありし露國國民が酒類販賣禁遏の制限をさへ甘受しつつあるが如き、要するに大体に於ては安逸を貪り堕落を逞する的の従来の弊風は、大に除去されて國民性は堅實強靭の

度を漸次高めつつあるは確かである換言すれば各邦とそれに國民の財と業とを集はずして國防能力を高め得る所謂國民性の陶冶向上に対して格段に努力を拂ひつつある勢である。這間の消息は動もすれば奢侈安逸に流れんとする傾ある帝國の將来を律する為には、至大の関係を有するから、須らく識者の三省を促したい。

二、國家の自給自治的施設、

欧洲今次の大戦爭破裂前に於ては、文化の進歩、交通の發達に伴いて、大に四囲を脱却し、対立せる諸國間に劃せられある國境なる障壁の力を弱めて、相互近通混和の程度を高めた、即ち露國の產穀は独國に輸入せられて同國民の生存に供し、独國の化学工藝品は盛に英佛に輸出せられて此等國民の活動を資け、露國は工業品を独國、資金を佛國の輸入に待ちて所謂有無相通し相補ふて、茲に國民生活上に大なる幸福利便を享受しつつあった、斯く生活、経済状態の相互錯綜複雑を極めし諸國民間に於ては、國民自己の生存に直接致命的痛痒を感するから、生活、経済状態の根柢を覆す様な大戦爭は、文明國同士の間には決して起らぬと云ふ觀念は、宇内の識者間に殆んど一致して居た所である、然るに國家の存立発展の為には、國民の幸福を一時犠牲と

する、辞するものとの出来ぬ度の必要が存する為め悲惨を極むる大戦争を、世人多数の豫期に反して勃発した、然るに戦争の開始以来は、彼の所謂有無相通じ相補ふ的に重視せられて居た所の、従来の国民生活の因果は覿面現はれ来りて、輸出入の杜絶遊滞の悲境に伴ひ、各種の不便不自由を甚だく感する様になりた、此の苦酸は遠かに戦場の中心熱より遠さかりて居ろ、吾人同胞まても苦しく嘗め来りた所である、遂に於てか国産奨励の声は、世界の隅々までを風靡して、各邦競ふて軍用諸品は勿論のこと、財政経済其の他の産業に渉り総し他国の補給を待つことなく、独立自給し得ろの途を講じ始めた、就中四面重囲の裡に在る同盟側に於ては、一般と云大の努力が伸はれた、此等努力の結果として今日にては世界各邦とも、大部分は自給自治の道が確立した様である、此の趨勢は恒来平和恢復の後に渉りてまても、益々助長されへき様運を有して居る、斯の如く他国の融通、補給を待たずして、自国に於て万事万端、自弁自給し得ると云ふことは恒来に於ける同戦の可能並戦争の持続性を一段と高め得たと共に一面に於ては銃後し得ざるのである、此つまとは今後の国防を論する者のみてない一般階級の須らく大に注意を要する点

てある

三、徹底的なる戦争の準備、一昨々夏欧州戦乱勃発より昨春頃まで約一年有半の間の戦争は一言にして之を評すれば所謂準備と不準備の闘争に外ならず、独逸及其共産側は、百年武装的に訓練し、数十年戦争準備を整へたる国家を挙げて兵火を開きたのである、之に反して聯合側に於ては、佛国を除き之とて決して十分ては無いが更に角指人と全く不準備の体勢に於て開戦を余儀なくせられたのは、万人周知の事柄である、就中伊国の如きは漸く一昨々年初頃にまり始めて参戦準備略完整ら し、茲に漸く

戦争の渦中に投じ得た、若し英蘭両国の戦争準備が平時に於て真に我が和戦両様の準備ありとか又は開戦に際しては攻防両勢撰擇の自由全く我に存すると対手国をして確認せしめ得る如く徹底的に完整して居たならば必ずや今次の大悲劇は起らずして開戦の誘因たる堪塞向の紛擾も間から間へ芽りまられたに違ひなく、少くとも自国の準備にして整ひありて開戦当初より無線度を明確にせしならば、恐らく世界に於ける醜闘血雨の期間を縮短し得たならんと、吾人の今尚深く遺憾として居る点である、抑平時に於ける戦争準備の完整は平和の維持に至大の関係を有

するのみならず、一旦不幸にして鉄火相見ゆるに至りても、戰期を短縮、局限する為に偉大の効果あるべきことは、茲に余の喋々を要せぬ。一昨年秋独軍が白耳義を蹂躙し佛軍を席捲して、恰も秋風枯葉を拂ふが如き勢を以て佛都巴里を指呼の間に眺めながらも、茲に頓挫を来して功を一簣に缺き、又一昨春大家東方に殺到し、露軍の精鋭を痛く蹂躙しながらも露国を屈服せしめ能はざりしが如き其の他殆合軍が試みたる「ヒヤン河」「ニヨ」及「ソンム」等の大攻勢の挫折して独軍戦線の一角だにも突破し得ざりし原因那辺に存するや、畢竟

意するに根氣強き攻勢継続に要する人馬、弾薬其の他の軍需品等の準備に於て缺くる所ありし結果に外ならず、所謂強努の末勢、遂に衰縮を穿ち能はざりし痛恨事は、各處の戰績が反復明示する所である、故に戰後に於ては平和維持の為にも、戰期短縮の為にも、将又根氣強き攻勢を遂行の為にも、列國が競ふて軍備の徹底的完整に努力すべきは明瞭である、而して其の努力の指導をば、強努の末勢尚克く鉄板をも穿貫し得るの然に置くべきことも、從来の苦き戰歴に徴して、強人と競ふの余地を存せぬ

四、科学工藝の遺憾なき應用、蜿蜒数百里に亘る戦線の到る處に於て、今や数百年来培養震育せられたる文化工藝の粋を挙げて遺憾なく利用しつつある、又開戦以後に於ても必要に促進せられたる各種の新発明が多く戦場に應用せられてをり、茲に此等の全部を網羅して讀者に紹介するさとは、限りある紙面の到底許さざる所なりとす、茲には単に重要と認むる二三件を記述するに止めて置く。其の第一は五、六人数年前迄夢想だにせざりし空中征服に関する施設である、開戦前迄は、航空機は主として敵情偵察の補助と、稀に大砲

射撃のとき、射弾落達の正否を観測する為に使用せらるるに過ぎざるものと、吾人は考へて居た然るに開戦後の今日に於ては、此の二大任務が従則以上に完全に達成せらるるに至りしのみならず、其の範囲も大に擴張せられて居る、加之ならず爆弾投下に依りて、敵の軍隊は勿論、戦線を離るる遠く数百里の外に在る飛行場市街等を撃滅破壊する為特に應用せらるるに至りた、從つて亦之を撃攘駆逐する為の専用航空機が採用せらるるに至り、今や制空権獲得の為頻次彼我航空機間の壮烈なる戦闘が演出せられ、其の戦闘規模大に擴張し其

の度数を漸く増加の趨向を示して居る。帝国都鄙に於て士女の心情を寒からしめたゞ、「ナイルス」「スエス」近く「スチンソル」嬢の宙返り術の如きも欧洲戦場の後方に在る斯術練習場に於ては、目下盛に演練せらるつあるのみならず、亦之に適應する器材と続々発明新調せられている、此の如き現時の趨勢に鑑み、一方将来に於ける航空機能力の増進に考へ及ぼしたならば、戦后若干年の内には各国とも一大航空軍を建設常備するに至るべきは殆んと疑ふの余地を存せぬ、次は自動的輸送機関の應用である、三方有余の自動車は、今や東西南の各戦

場に駆奔走して軍隊、弾薬、糧秣、傷病者の輸送上に大活動を試みて居る、五吉人は車舟並西路国内の沼澤多き地方に於ける之が運用に関しては毎日は大に疑問として居た所であるが、近時聞く所によれば湿潤迂曲の此の地方にも今や人為的に構成せられたる良路を認め得るに至り、此等機関は盛に活動しあるとのことである、敵前に於て大軍を以てする山地の通過、大河の渡過の如きは古来用兵上の至難事とした所である、然るに「ウイスチニラ」「ニーメン」「サン」「ダニエブ」諸大河の渡過「カルパーテ」山脈並埃羅国境にある大山径の通過も近代技術の補助に依りて、在外

容易に實行せられたるか如き觀がある、其の他、巨砲の出來、衣料、豐富なる彈藥の準備、運輸、通信の設備、統帥、近接戰鬪を有利に進すべき特種器材の構成等は、論するまでもなく、特に國家の武裝に方り、又大に重要視すべき事柄である、之を要するに人力を以て天然を制服し之を凌駕し能ふの程度は著しく增進の勢にあり、此の氣運に後れざる爲の努力は、技術工藝方面に於て尚ほ著しく幼稚の域を脫せざる帝國現時の立場に於ては殊更に注意すべき點である

（注意一行アケル）

今次の大戰爭に於ける悲慘極まる現象は、必ずや宇内各國民の心裡に平和愛好の希望を增進せしむるに至るべきは惟てある、乍併國際間の道義の制裁力が數段強くなりて、常に正義とか人道とか云ふ觀念が國の利害てふ欲望を制壓し得るに到らざる限りは、如何なる形容を以て構和が成立するにしても、戰後の平和は先以て武裝的平和たるに過ぎざるべし、斯の如き狀況の下に行はるべき列國の軍事施設は各種の形體を具へて、實現せらるるならん、其の陸上の施設としては、形體の如何に拘らず、先ず未指摘したる四大要目を基礎として之を

準用する程度の如何に帰着するものと考へて差し
たる向違はあるまじ、帝國の将来に対する陛下の
施設も、亦此の要旨の適確なる實現を期する方
針の下に、邁進したならば先つ以て大体に於て
十全てあると信ずる、